

⑧JA 鳥取中央東郷梨選果場 *経営学部3年 小谷 真嗣さんによるレポート

合宿最終日、30日午後を訪れた「JA 鳥取中央東郷梨選果場」についてのレポートを記したいと思います。

東郷梨選果場は東洋一のマンモス選果場と呼ばれており、1982～1983年のピーク時で年間90万ケースを出荷していました。現在では年間20万ケースでピーク時に比べると減少しています。東郷梨選果場がある湯梨浜町は東郷池を中心として梨を栽培しており、他地域より池があることで温暖な気候となっています。このような気候のため、傾斜地が多い梨栽培に適しています。東郷梨を育てていらっしゃる農家もピーク時の800人から比較すると現在では287人まで減少しています。東郷梨の品種は「二十世紀梨」「あたご」「新甘泉」「秋栄」など様々ありますが、160ヘクタールの栽培面積のうち96ヘクタールにおいて二十世紀梨の栽培を行っています。

次に、東郷梨の地域性についてです。東郷梨を栽培しておられる農家は、二十世紀梨を最上のものと捉えています。梨農家は代々引き継がれていくものでしたが、近年では、作業時間の割に収益性が少ない等の理由で引き継がれず、耕作放棄地になっているところもあります。しかし、耕作放棄地であるにもかかわらず、他人に貸すのは抵抗があるなどで問題が深刻化しています。ただ、地域自体が排他的な一面がある一方、新規で参入する人も増えつつあります。

今回訪問させていただいて、私は、梨を栽培しておられる生産者の気持ちを知ることが出来るなど、梨の栽培と地域の人々とのかかわりについて学ぶことが出来ました。



JA 鳥取中央東郷梨選果場前で